



バックエンド部会 第56回全体会議

日時: 2022年3月17日(木) 12:10~12:50

会場: 日本原子力学会「2022年春の年会」 オンライン開催

K会場

バックエンド部会第56回全体会議



2022年3月17日(木)12:10～ 於 K会場

【議事次第】

- 部会長挨拶
- 2021年度バックエンド部会表彰
- 2021年度活動報告
 - ① 企画報告(企画セッション、夏期セミナー、PSWG他)
 - ② 広報報告(部会HP小委員会活動、週末基礎講座)
 - ③ 出版報告(部会誌の発行状況等)
 - ④ 庶務報告(海外発表助成・研究会支援制度、
2022年度運営委員改選)
 - ⑤ 会計報告(収入・支出実績)

部会長挨拶



2020-2021年度の部会長を務めました電力中央研究所の杉山大輔です。

11回目の3月11日を、被災地の皆様、関係者の皆様による復興や除染のご尽力に改めて思いを馳せながら迎えました。そして、バックエンドに携わる人間として、これまで以上に腰を据えて努力をしなければと、気持ちを新たにしました。福島第一原子力発電所の廃炉はもちろんですが、全国で18基の発電用原子炉の廃止措置が開始されております。廃炉・廃止措置を着実に進めるためには、まだまだ研究開発が必要です。学会、そしてバックエンド部会に皆さまと集まることによって、夢があり、現場が動き、新しい世代を引き付けるような、そんな場を作り、保っていかなければならないと思います。

2020-2021年度の部会活動は、全てオンラインとなりましたが、各活動には多くのご参加をいただきまして、対面に近い雰囲気での議論を交わすこともできたと思っています。さらには、環境放射能除学との連携シンポジウム、原子力安全部会との継続的な意見交換会、理事会主催のウィークリーウェビナー「放射性廃棄物の管理」への協力など、他部会や他学会と連携した活動も展開できました。異例ながら2年間部会長を務めさせていただく動機づけとなりましたオンライン活動の定着は何とか達成できたのではと思っています。今後は、佐々木新部会長のもと、対面で集まったの活動も再開され、オンライン活動との併用、融合がなされ、さらに新しい、元気な部会に発展していくものと期待しています。

では改めて、一部会員として、皆様と議論させていただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。





2021年度バックエンド部会表彰

2021年度バックエンド部会賞 受賞要件



功績賞

バックエンド分野において幅広くかつ顕著な貢献のあった個人、毎年1名以内

業績賞

バックエンド分野において顕著な学術または技術上の業績のあった個人またはグループ、毎年2名以内もしくは1グループ以内

奨励賞

バックエンド分野において顕著な学術または技術上の業績のあった概ね40才までの個人、毎年3名以内



受賞者

新堀 雄一 殿（東北大学大学院）

選考理由：

候補者は、バックエンド分野において、幅広く深い研究活動を行い、200件を超える原著論文等を発表するなど、多くの成果を挙げてきた。特に、地下環境における物質の移動や化学反応を明らかにした現象論の研究成果、さらに現象理解を基盤とした処分安全評価研究の成果は関連分野の道標となっている。また、放射性廃棄物処分の現状解説や課題提起の著作を多数手がけ、人材育成活動にも取り組み、指導的役割を果たしてきた。長年にわたり我が国のバックエンド分野の発展に大きく貢献してきたことは明白である。

学会においては、バックエンド部会長・運営委員、標準委員会原子燃料サイクル専門部会長、日本原子力学会東北支部長、日本原子力学会副会長・理事等を歴任し、バックエンド分野はもちろん、学会のアクティビティへの貢献は顕著である。

近年は、福島第一原子力発電所事故後の除染で発生した除去土壌等の処分に関する検討チームの委員を務めるなど、バックエンド分野の第一人者として、幅広い貢献がある。

以上、候補者のバックエンド分野における功績は著しく、功績賞に値するものと思料する。今後も引き続き、バックエンド分野における指導的役割を強く期待することを付記したい。

功績賞



受賞者

新堀 雄一 殿

(東北大学大学院)



表彰状

功績賞

新堀 雄一 殿

貴殿の原子力バックエンド分野の
発展に寄与された功績はまことに
顕著であります

よってここに表彰します

2022年3月17日

一般社団法人日本原子力学会バックエンド部会

部会長 杉山 大輔



受賞者

オーラル・ヒストリー～地層処分研究開発～

タスクフォース 殿

(坪谷隆夫氏、増田純男氏、梅木博之氏、河村秀紀氏、藤原啓司氏、間野正氏)

選考理由:

「オーラル・ヒストリー～地層処分研究開発～」は、わが国における地層処分研究開発の歴史の一断面を複数の関係者の口述をもとに遺す試みである。一大研究開発史と言える。

わが国における地層処分はこれから長い年月を刻んで歴史が遺されるものと考えられるが、本書は、当時どのような考えで、どのようにして報告書がとりまとめられたのか、その背景を当事者自らの言葉で証言してもらったものである。その過程は、放射性廃棄物処分システムの性能評価研究の黎明期の状況を含む多くを学ばなければならない者にとって、数多の示唆を含んでいる。

なお、本書は、原環センター創立40周年記念事業として取りまとめた「オーラル・ヒストリー～地層処分研究開発を語る～」(2016年9月、関係者のみに配布)を一部改訂のうえ、編者坪谷氏が著作権の譲渡をうけ「オーラル・ヒストリー～地層処分研究開発～」として自費出版(2020年10月、印刷・製本)したものである。日本原子力学会シニアネットワーク連絡会HPから無償でダウンロードが可能である。

以上から、業績賞授与が相応しいと考えるものである。

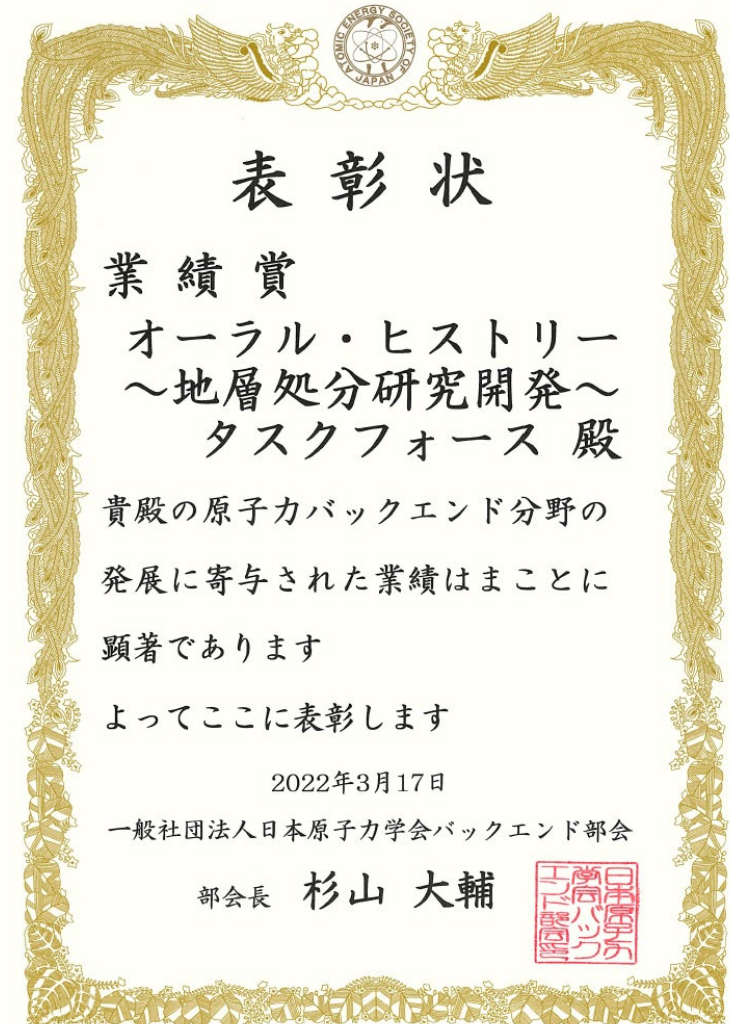
業績賞



受賞者

オーラル・ヒストリー ～地層処分研究開発～ タスクフォース 殿

坪谷隆夫氏、増田純男氏、
梅木博之氏、河村秀紀氏、
藤原啓司氏、間野正氏



奨励賞



2021年度該当なし



優秀講演賞

バックエンド分野に関する，日本原子力学会またはバックエンド部会が主催・共催する行事において優れた口頭発表をおこなった個人を対象。各行事で原則1件以内。また，学生優秀講演賞を別途設置する場合には，各行事でさらに1件を追加。

ポスター賞

バックエンド分野に関する，日本原子力学会またはバックエンド部会が主催・共催する行事において優れたポスター発表をおこなった個人を対象。各行事で原則1件以内。

優秀講演賞



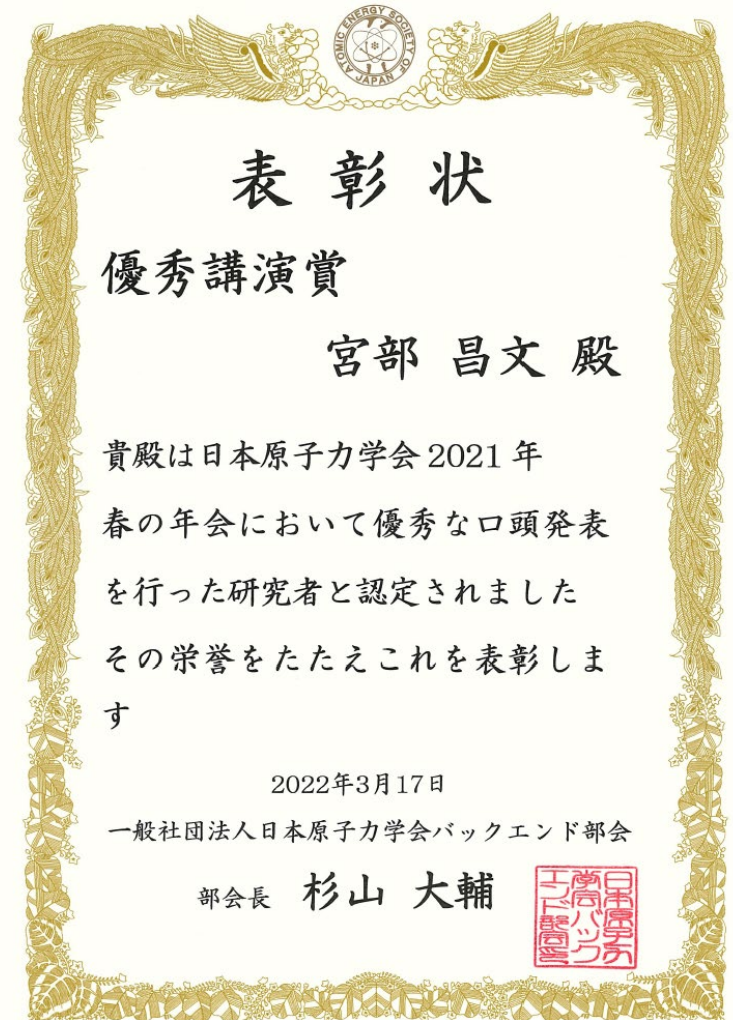
2021年春の年会
受賞者

宮部 昌文 殿

(日本原子力研究開発機構)

選考理由:

2021年春の年会の口頭発表2J13「レーザー加工により発生する微粒子の解析と核種同定手法の開発(4)_(2)高分解能遠隔核種分析法の開発」について、「“優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



学生優秀講演賞



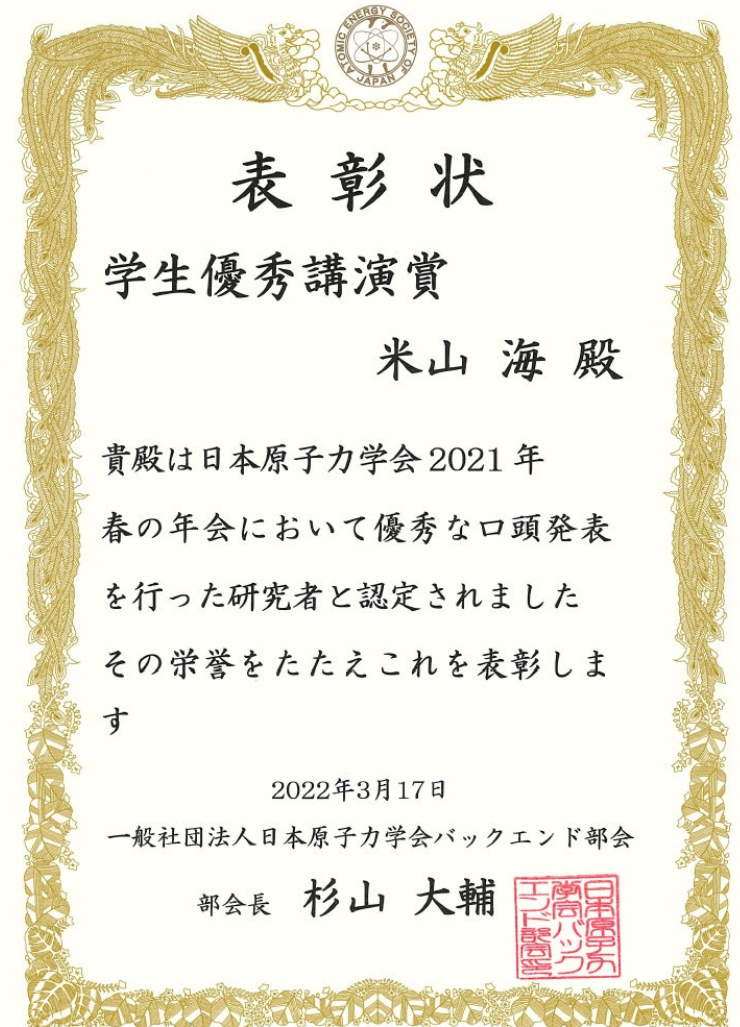
2021年春の年会
受賞者

米山海 殿

(東京都市大学大学院)

選考理由:

2021年春の年会の口頭発表1104「中性子放射化分析によるコンクリートへのCs浸透挙動の検討」について、「“学生優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



優秀講演賞



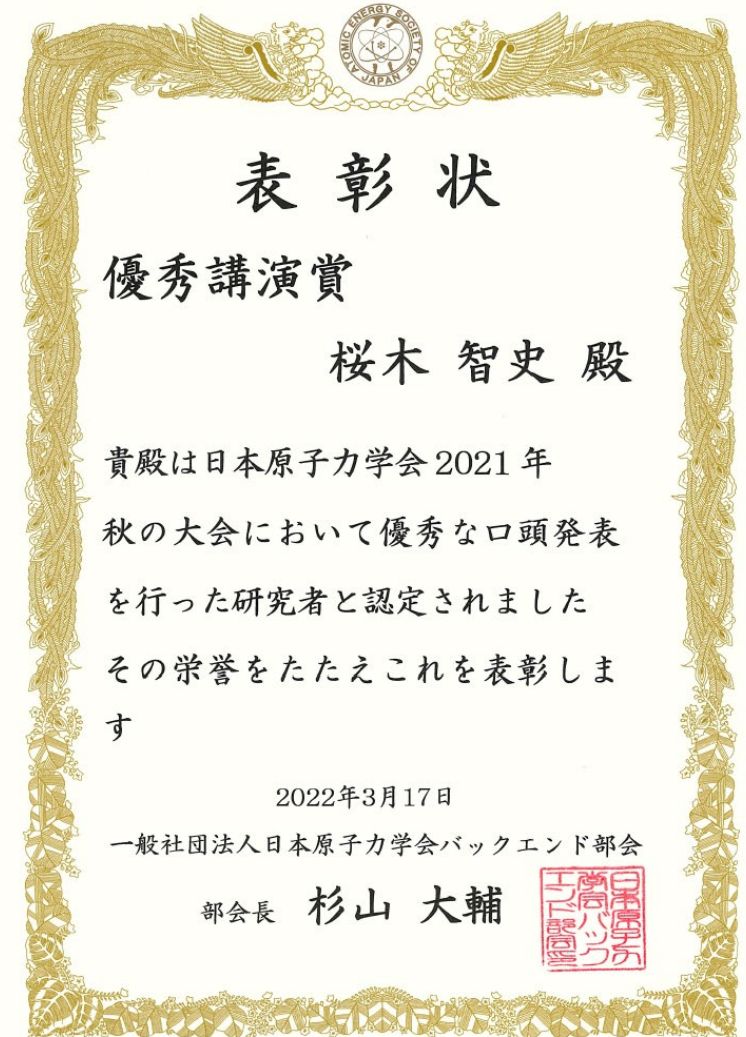
2021年秋の大会
受賞者

桜木 智史 殿

(原環センター)

選考理由:

2021年秋の大会の口頭発表3B09「使用済みMOX燃料由来のガラス固化体のMA分離による発熱低減と高含有化による処分場面積の合理化検討」について、「“優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



学生優秀講演賞



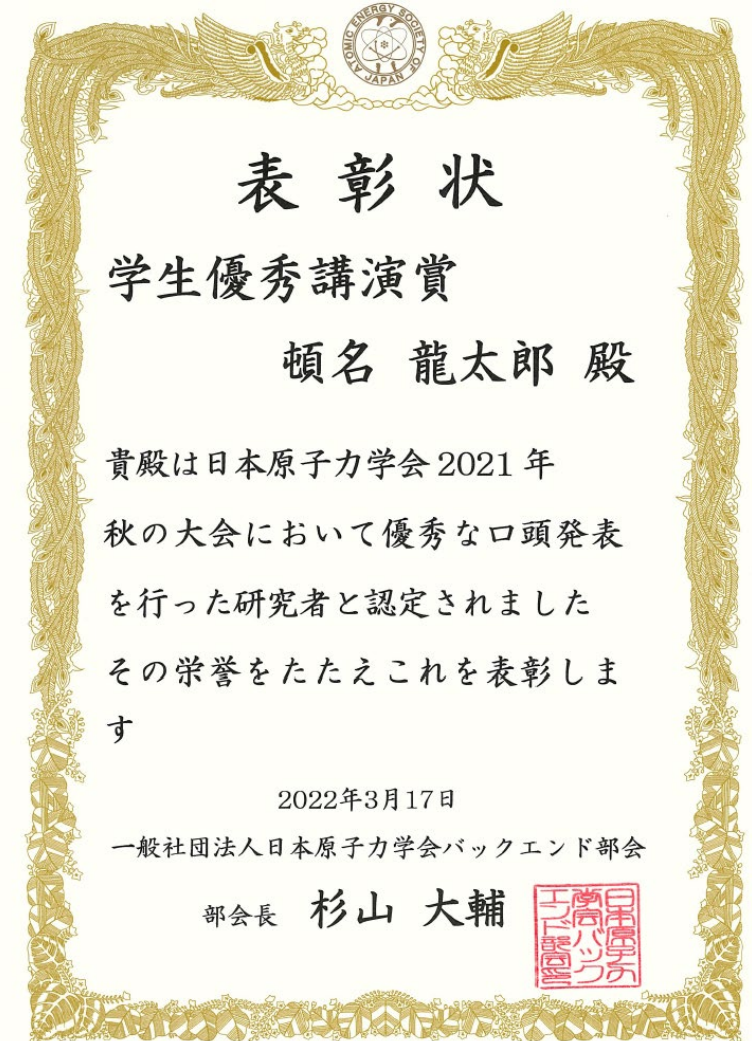
2021年秋の大会
受賞者

頓名 龍太郎 殿

(京都大学大学院)

選考理由:

2021年秋の大会の口頭発表1C01「5価ウラン—鉄酸化物の溶解メカニズムに関する考察」について、「“学生優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



ポスター賞



第37回バックエンド夏期セミナー 受賞者

中林 亮 殿

(電力中央研究所)

選考理由:

第37回「バックエンド」夏期セミナー(2021年8月)ポスターセッションの発表「放射性廃棄物処分におけるベントナイト層の透水係数の合理的な品質管理手法の提案ー地球統計学手法の適用性に関する基礎的検討ー」についての評価結果による。

バックエンド部会
ポスター賞

一般社団法人電力中央研究所
中林 亮 殿

あなたは日本原子力学会バックエンド部会第37回「バックエンド」夏期セミナーにおいて優秀なポスター発表を行った研究者と認定されました
その榮譽をたたえこれを表彰します

2021年8月26日
日本原子力学会バックエンド部会
部会長 杉山 大輔



学生優秀ポスター賞



第37回バックエンド夏期セミナー 受賞者

吉田 智哉 殿

(東海大学)

選考理由:

第37回「バックエンド」夏期セミナー(2021年8月)ポスターセッションの発表「銅コーティングオーバーパックの腐食に関する解析的検討」についての評価結果による。

バックエンド部会
ポスター賞

東海大学

吉田 智哉 殿

あなたは日本原子力学会バックエンド部会第37回「バックエンド」夏期セミナーにおいて優秀なポスター発表を行った研究者と認定されました
その栄誉をたたえこれを表彰します

2021年8月26日
日本原子力学会バックエンド部会
部会長 杉山 大輔



2021年度バックエンド部会賞 受賞要件



論文賞

部会誌「原子力バックエンド研究」に掲載された過去3年間の論文を対象。毎年1編以内。ただし、主著者が同一であり、複数の論文が一連となっている場合は、1編とみなすことができる。

功労賞

バックエンド部会の発展に顕著な功労のあった個人を対象。平成27年度新設。毎年2名以内。

本年度は功労賞の該当者はナシ。



受賞者

高山 裕介 殿（日本原子力研究開発機構）

菊池 広人 殿（日本原子力研究開発機構）

選考理由：

部会誌「原子力バックエンド研究」Vol.27-1(2020.6)に掲載の論文「塩水条件での緩衝材の力学挙動に対する弾塑性構成モデルの適用性に関する研究」について、「“論文賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。

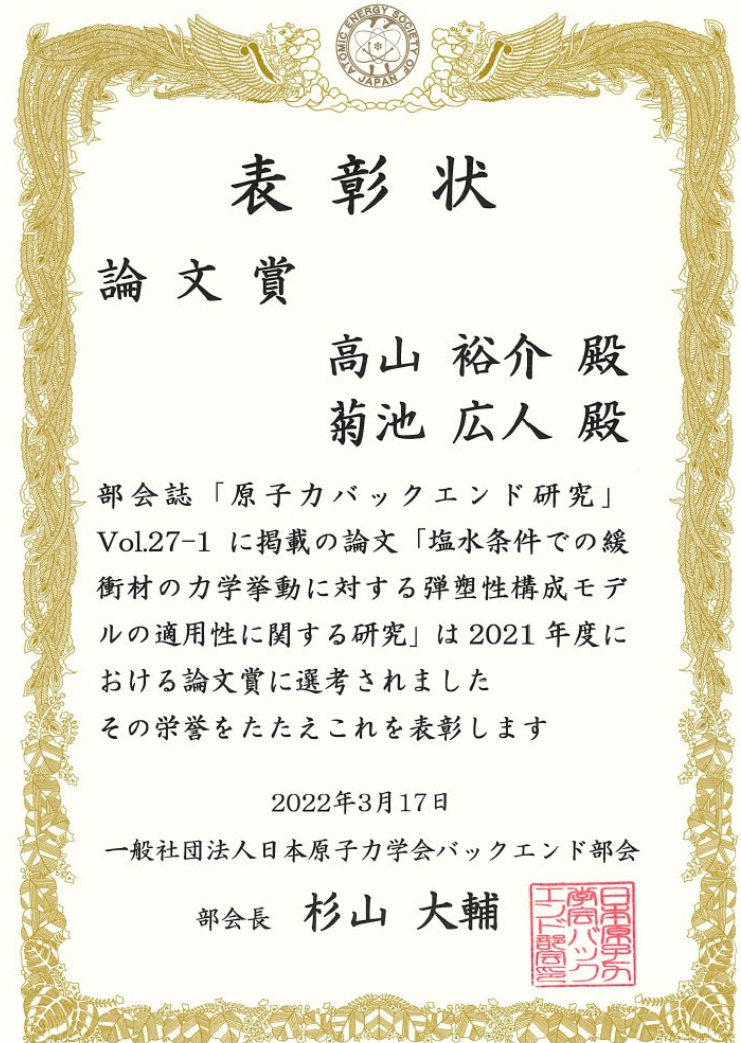
論文賞



受賞者

高山 裕介 殿
(日本原子力研究開発機構)

菊池 広人 殿
(日本原子力研究開発機構)





2021年度活動報告

①企画A報告【大会・年会における企画セッション】



【2022年春の年会】

□バックエンド部会 企画セッション

[2K_PL]研究施設等廃棄物の現状と埋設事業へ向けた取り組みについて

2022年3月17日(木) 13:00 ~ 14:30 K会場

司会: 杉山 大輔 (電中研), パネルディスカッション座長: 出光 一哉 (九大)

(2K_PL01) RI協会における廃棄物管理の現状について

大越 実 (日本アイソトープ協会)

(2K_PL02) 大学における廃棄物管理の現状

-九大施設の廃止措置によって発生した廃棄物-

出光 一哉 (九大)

(2K_PL03) パネルディスカッション

研究施設等廃棄物の埋設事業へ向けた取り組みについて

出光 一哉¹, 大越 実², 羽場 宏光³, 福谷 哲⁴, 坂井 章浩⁵

(1. 九大, 2. 日本アイソトープ協会, 3. 理科研, 4. 京大, 5. JAEA)

【2022年秋の大会】

企画のアイデア・ご希望がございましたら、運営小委員会委員までご連絡ください！！(後日に部会メールサービスで案内)

①企画A報告【大会・年会における企画セッション】



【2022年春の年会】

□「放射性廃棄物の処理・処分と分離・変換技術」研究専門委員会 総合講演・報告
(バックエンド部会共催)

**[1K_PL] 分離・変換技術の廃棄物処理・処分への適用
先進的核燃料サイクルの総合的な性能評価**

2022年3月16日(水) 13:00 ~ 14:30 K会場

座長: 佐々木 隆之 (京大)

(1K_PL01) 「放射性廃棄物の処理・処分と分離・変換技術」研究専門委員会における活動概要と総合的な性能評価の考え方

西原 健司 (JAEA)

(1K_PL02) 現行軽水炉サイクルを対象とした評価

中瀬 正彦 (東工大)

(1K_PL03) MOXプルサーマルサイクルを対象とした評価

牧野 仁史 (JAEA)

(1K_PL04) 高速炉サイクルを対象とした評価

渡部 創 (JAEA)

(1K_PL05) 総合的な性能評価のまとめと提言

稲垣 八穂広 (九大)

①企画A報告【大会・年会における企画セッション】



【2022年春の年会】

□再処理・リサイクル部会 企画セッション(バックエンド部会共催)

[3I_PL] 国際ガラス年2022 再処理プロセスにおけるガラスの役割と将来展望

2022年3月18日(金) 13:00 ~ 14:30 I会場

司会: 増野 敦信 (弘前大)

(3I_PL01) 日本原燃におけるガラス固化技術開発の現状と展望

太田 祐希(日本原燃)

(3I_PL02) IHIにおけるガラス固化技術開発の現状と展望

多田 晴香(IHI)

(3I_PL03) ガラス溶融炉におけるモリブデンの反応挙動

菅原 透(秋田大)

①企画A報告【2022年春の年会 プログラム編成委員】



■ 以下の方々にプログラム編成にご尽力いただきました。

コード	専門分野	WGリーダー	WGメンバー
505-1	放射性廃棄物 処理	金山 文彦(JAEA)	小林 大志(京大) 近藤 陽太(日立GE)
505-2	放射性廃棄物 処分と環境	尾上 博則(NUMO)	桜木 智史(原環センター) 千田 太詩(東北大)
505-3	原子力施設の 廃止措置技術	川崎 大介(福井大)	中村 保之(JAEA) 早野 明(JAEA)



□「放射性廃棄物の処理・処分と分離・変換技術」研究専門委員会

- 設立期間:2019年6月 ~ 2022年3月
- 分離・変換技術を含む先進的な核燃料サイクルについて調査し、二次廃棄物も含めた各種廃棄物の処理・処分に及ぼす影響を定量的、総合的に検討・整理
- 処分場の長期の安全性向上などに寄与する実現可能な技術オプションとなりうるための分離・変換技術への提言
- 3/16の総合公演・報告にて, 3年間の活動報告

□「地層処分のセーフティケースに係る様々なステークホルダーを対象とした理解促進に関する方法の検討」研究専門委員会

- 設立期間:2021年9月 ~ 2024年3月
- 地層処分に特有の概念や用語に対する専門家間の認識のずれ、セーフティケースの分かりにくさの原因を整理
- 上記を解消するための重要な用語の解説、コミュニケーション上の配慮事項等を取りまとめ、実践を通じてコミュニケーションのための知識ベースを構築

①企画B報告 【第37回バックエンド夏期セミナー】



と き:2021年8月26日(木)有料セッション、27日(金)無料セッション

ところ:オンライン開催

テーマ:福島第一原子力発電所の事故後10年の歩みと今後のバックエンドの取組み

参加登録者数:157名

・Web会議の利点を活用し、LIVEでの開催に加えオンデマンドで動画を配信

・ポスターセッション:8件

- ポスター

- ショートプレゼンテーション

- ブレイクアウトルームにおける意見交換、質疑

事務局にお声がけください。(事務局:岡部、山田)
○聴講される方は、音声(マイク)の確認をお願いします。
○発表者は資料表示、音声(マイク)の確認をお願いします。
○座長、ファシリテーターの方は、共同ホストの設定のテスト、音声(マイク)の確認をお願いします。
確認が済みましたら、退出して頂いても問題ありません。

当日の注意事項(概略版)

- ・Zoomアプリで参加ください(Web版ではポスターの意見交換を行うブレイクアウトルームに入れません)
- ・Zoomアプリは最新版を使用してください。
- ・聴講者はマイクをoff、カメラをoffにして下さい。
- ・参加者名を「氏名@所属機関」に変更してください。
- ・当該セッションの座長は「座長:氏名@所属機関」に変更してください。
- ・質問は随時チャットで受け付けています。座長宛にチャットで送付してください。
- ・Zoomの録画・録音・スクリーンショットは禁止しております。
- ・登壇者、講師、聴講者等、参加者のプライバシーへのご配慮をお願いいたします。

○バックエンド夏期セミナーポスター賞

電中研 中林 亮 殿

「放射性廃棄物処分におけるベントナイト層の透水係数の合理的な品質管理手法の提案

—地球統計学手法の適用性に関する基礎的検討—

○バックエンド夏期セミナー学生優秀ポスター賞

東海大学 吉田 智哉 殿

「銅コーティングオーバーパックの腐食に関する解析的検討」

・講演資料・講演再録:部会ホームページ(夏期セミナー)に掲載

・講演再録、セミナー参加記:部会誌Vol.27-2に掲載

①企画B報告【第38回バックエンド夏期セミナー予定】



以下で開催を検討中

○開催日：2022年8月25日（木）～31日（水）

※上記のうち1日または2日間

○開催方式：現地＋オンライン開催の併用を検討

※状況によりオンライン開催のみとなる場合がある。

○内容：

現在、日本では高レベル放射性廃棄物の最終処分場の選定における対話活動の一環として、2つの自治体で文献調査が実施されている。夏期セミナーでは、文献調査に続いて行われる概要調査にスポットを当て、概要調査に係る調査技術の開発状況などについて共有したいと考える。

今後、詳細なプログラムを検討する。

○見学会：地下構造物の見学、JAEAや大学施設等のオンラインでのラボ見学を検討中。



□PSWG (ポジション・ステートメントWG)

- ポジション・ステートメントのより一層の認知度向上及び、タイムリーなPS発信を目指して、PSの枠組みやプロセスの見直しについてWGにて協議を実施。理事会に提出する見直し案を作成中。
- バックエンド部会から提案しているPSは、「ガラス固化体の性能」、「廃棄物埋設の放射線防護に関する国際的な考え方について」、「クリアランス」、「高レベル放射性廃棄物の地層処分」であり、適宜進めている。
- 「廃棄物埋設の放射線防護に関する国際的な考え方について」は発案者からの意向を受けて取り下げる方向としている。

□EAFORM

- 次回ホスト国である韓国の動きが無く、開催は未定。

□日韓原子力学生・若手研究者交流事業運営

- 2021年度の活動内容は2022年度の準備のみであり、BE部会として今年度の日韓若手研究者の交流の実績は特に無し。



1. 部会ホームページの管理・運用(9/7～3/7)

<https://nuce.aesj.or.jp/>

- ・部会誌「原子力バックエンド研究」Vol.28 No.2 掲載、記事・論文等の先行掲載
- ・バックエンド週末基礎講座案内の掲載
- ・海外発表助成制度候補者、部会賞受賞候補者、フェロー推薦の募集案内
- ・運営委員改選のお知らせ及び結果の掲載

2. バックエンド部会情報メールサービス(メーリングリストによる情報連絡)

配信実績：R3年度下期 18件(9/7～3/7), 配信先 438名(3/14現在)

お知らせとお願い

メール配信開始/停止, アドレス変更は部会員からの申告によって行います。(部会加入と連携していません)
配信エラーが続くと自動的に配信停止となります。

メール配信ご希望の方, アドレスの変更があった方は広報担当までお知らせください。

e-mail: info@nuce.aesj.or.jp (部会ホームページをご覧ください)

3. ホームページ小委員会メンバー

榊原 哲朗	原子力機構	広報委員(2020～)	HP更新, メール配信等の窓口, 運営小委員会との連絡調整
岩田 孟	原子力機構	広報委員(2021～)	同上
佐々木 隆之	京都大学		運営全体の俯瞰, 企画・提案
笹川 剛	原子力機構		部会情報メール メーリングリスト管理, メール配信
佐原 聡	原環センター		HPサーバー運用・管理(主担当)
平野 史生	原子力機構		HPサーバー運用・管理



- 日程: 令和3年11月12日(金)9:00~17:00
- 場所: オンライン(Zoom)
- 参加人数: 計30名(学生5名, 社会人16名, 講師・事務局9名)
- プログラム(講師: 敬称略): 以下の講義(4コマ)と演習(2コマ)をオンラインで実施した。
 - 講座1: 核燃料サイクルとバックエンドの基礎(バックエンド部会副会長 佐々木隆之)
 - 講座2: 地層処分研究の概要(JAEA 山口正秋)
 - 講座3: 地層処分事業の進め方(NUMO 吉田芙美子)
 - 講座4: 研究施設等廃棄物の埋設事業について(JAEA 坂井章浩)
 - 演習1: 幌延深地層研究センター350m坑道オンライン見学ツアー (JAEA 武田匡樹)
 - 演習2: わかりやすい地層処分Q&Aを考える(オンラインディスカッション)(NUMO 竹野竜平)

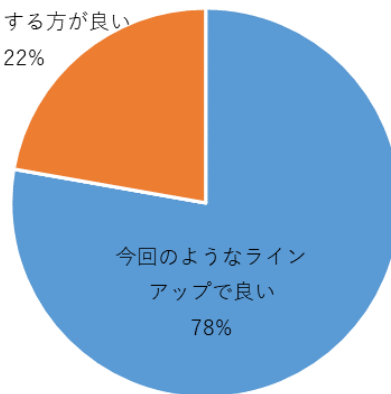


■ アンケート結果(抜粋)・まとめ

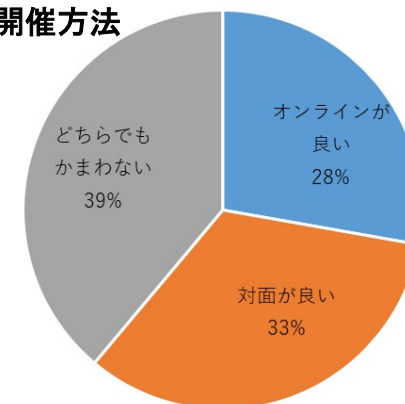
- 全体構成、開催期間(日数)、時期等は現状に肯定的な意見が多かった。一方、参加しやすさの観点から一日間の開催を支持する意見が多かったが、内容の充実を求めて2日間の開催を求める意見もあった。
- 「今回のラインナップが良い」が8割近かったが、「テーマを絞って深掘りする方が良い」が2割以上あり、具体的には「後半駆け足になることが多いため、内容を絞って欲しい」などの意見があった。
- 開催方法は「オンラインが良い(28%)」に対し「対面が良い(33%)」がわずかに上回った。(昨年度は「オンラインが良い(66%)」、「対面が良い(6%)」)

Q6 講義のラインナップ

もう少しテーマを絞って深掘りする方が良い
22%



Q8 開催方法





③出版報告 【部会誌の発行】

- 部会誌「原子力バックエンド研究」 Vol.28 No.1 & No.2
CD(615部作成)を部会員の皆様にお送りしました。

■ 部会誌の発行

Vol.28 No.2 発行 2021年12月15日

目次

【巻頭言】

- ・原子力エネルギーの持続可能性—想像力と創造力
梅木博之

【資料】

- ・瑞浪超深地層研究所におけるリスク・コミュニケーションに向けた取り組み
大澤英昭, 松井秀樹

【特集:第37回バックエンド夏期セミナー】

【会議参加記】

- ・「2021年度バックエンド夏期セミナー」参加報告
頓名龍太郎

③出版報告 【部会誌の発行】



【講演再録】

- ・福島第一原子力発電所廃炉で発生する廃棄物のマネージメント
渡邊直子
- ・福島第一原子力発電所廃炉における廃棄物の取組みと今後について
加藤和之
- ・3号廃棄物埋設施設の増設等の事業変更許可について
小澤孝
- ・環境放射能除染学会「県外最終処分に向けた技術開発戦略の在り方に関する研究会」の活動紹介
山田一夫
- ・福島第一原子力発電所オンサイト廃棄物の処理技術開発
黒木亮一郎
- ・環境放射能除染学会連携シンポジウム「除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた技術開発と研究の方向性」講演再録 除去土壌等の再生利用技術開発成果
日置潤一

【会議参加記】

- ・国際会議『CPEG2020』参加報告
吉川絵麻, 渡邊保貴

③出版報告 【部会員の皆様へのお願い】



■ 部会誌のさらなる内容充実にご協力をお願いします

- ・ 積極的な投稿（情報発信の場としての活用）をお願いします。
概ね40歳までの研究者・学生の論文は、論文賞のみならず
奨励賞の対象となります。
- ・ 査読へのご協力をお願いします
- ・ 特集テーマのご提案をお願いします

※論文の投稿または部会誌へのご意見/ご要望等は下記メールへ

journal@nuce.aesj.or.jp

<http://nuce.aesj.or.jp/journal:info>

④庶務報告 【支援制度】

【海外発表助成制度】

- 若手研究者の海外発表に関する渡航滞在費を助成
- 半期あたり原則1名を対象に13.5万円を限度に助成
- 詳しくは部会ホームページに掲載の募集要領を参照
- 2021年度実績：上期分(2月10日締切) 応募なし
下期分(8月10日締切) 応募なし
- 2022年度実績：上期分(2月10日締切) 応募なし
予定：下期分(8月10日締切)



【研究会支援制度】

- 部会員から研究テーマを公募して研究会を設置
- 研究会の費用を年間13.5万円までを目安に支給
- 会期は最長3年とし、適宜成果を取りまとめて発表
- 詳しくは部会ホームページに掲載の募集要領を参照
- 2021年度実績：応募なし
- 2022年度予定：現状なし



④庶務報告 【2022年度運営委員改選選挙結果】



令和4年度運営委員改選選挙結果(敬称略)

役職	氏名	所属
部会長	佐々木 隆之	京都大学
副部会長	坂本 義昭	原子力機構
運営委員	松岡 稔幸	原子力発電環境整備機構
//	渡邊 直子	北海道大学
//	市川 恭子	日本エヌ・ユー・エヌ
//	福田 雄基	三菱重工
//	中林 亮	電力中央研究所
//	齋藤 龍郎	原子力機構
//	山田 俊子	清水建設
//	田村 直之	日本原燃

部会員総数: **565**(2022/01/31時点) 有効投票数: **278**(有効投票率: **49.2%**)



総計（円）

収入の部			
科目	実績額	予算額	執行率
通常予算	387,000	593,000	65%
セミナー予算	178,000	1,760,000	10%
<総計>	565,000	2,353,000	24%

2、3月度は見込みで算出

支出の部			
科目	実績額	予算額	執行率
通常予算	609,228	900,000	68%
セミナー予算	9,424	1,453,000	1%
<総計>	618,652	2,353,000	26%
収支			-53,652

収支：－約5万円（昨年度実績：＋約34万円）

- 通常予算については、支出が計画よりも減少したものの、収入も減少したため、予算計画どおりの赤字計上となった。（セミナー収支で相殺させる予算計画となっている。）
- セミナー予算については、夏期セミナーおよび週末基礎講座をWEB開催としたため、予算計画とは大きな乖離があったものの、黒字計上となった。
 - ◆収入の部：通常予算の減、セミナー予算の減
 - ◆支出の部：通常予算の減、セミナー予算の減（科目別の詳細は次ページ参照）
 - 次年度予算については、コロナ禍以前の実績ベースに編成する。
（セミナー予算の現地開催ベースでの予算編成など）



④会計報告 【増減要因】

内訳：通常予算収支（円）

収入の部			
科目	実績額	予算額	執行率
受取掲載料	44,000	250,000	18%
受取配分金	343,000	343,000	100%
<小計>	387,000	593,000	65%

収入の部：減額（執行率65%）

- 掲載料収入減のため

支出の部：減（執行率68%）

- 主に、支払助成金（海外発表助成金）および旅費交通費の支出ゼロによるもの

支出の部			
科目	実績額	予算額	執行率
旅費交通費	0	160,000	0%
通信運搬費	224,404	259,000	87%
消耗品費	45,808	16,000	286%
一般外注経費	259,386	330,000	79%
謝礼金	78,750	0	0%
雑費	880	0	0%
支払助成金(事)	0	135,000	0%
<小計>	609,228	900,000	68%
収支			-222,228

内訳：セミナー予算収支（円）

収入の部			
科目	実績額	予算額	執行率
受取参加費	178,000	1,760,000	10%
<小計>	178,000	1,760,000	10%

収入の部：大幅減（執行率10%）

- WEB開催によって参加費を大幅に減額したため

支出の部：大幅減（執行率1%）

- WEB開催のため、会議室使用料、バスチャーター代などの支出がなかったため

支出の部			
科目	実績額	予算額	執行率
会議費	0	640,000	0%
通信運搬費	2,604	0	0%
消耗品費	550	3,000	18%
一般外注経費	0	200,000	0%
出展費	0	210,000	0%
賃借料	6,270	0	0%
雑費	0	400,000	0%
<小計>	9,424	1,453,000	1%
収支			168,576

・支出の部で実績と予算の乖離がある科目について、次年度の予算編成に反映する。
 ・次年度セミナー予算については、WEB開催ベースでの編成とはせず、現地開催ベースでの編成とする。



なし



Fin.